

動物をめぐる景観について

On Zoological Landscape

藤尾直史

By Tadashi FUJIO

動物学教室へ残された一連の写真資料へ動物学関係のものがまとまって含まれているのは当然といえ、当然であるが必ずしも狭義の動物学関係へ限られないものも少なからず含まれていることについてあるいはそのようなものの全体的な位置づけということについて論じられることはほとんどない。このようなことからそのようなものうちとくに特徴的なものについてさらには景観ということへも関わるようなものについて論じようというのがここでのねらいである。

00. 序¹ 2

動物学教室へ残された一連の写真資料へ動物学関係のものがまとまって含まれているのは当然といえ、当然であるが必ずしも狭義の動物学関係へ限られないものも少なからず含まれていることについてあるいはそのようなものの全体的な位置づけということについて論じられることはほとんどない。このようなことからそのようなものうちとくに特徴的なものについてさらには景観ということへも関わるようなものについて論じようというのがここでのねらいである。

01. 養狐事業関係

【史料 0101】³

因ツテコヽニ加奈陀ニ於ケル養狐ノ実況ヲ模型及写真ニヨリテ説明シ併セテ樺太ニ於ケル養狐事業ノ現況ヲ示シ最後ニ我国ニ産スル狐ノ種類ヲソノ毛皮標本ニヨリテ説明ス

【史料 0102】⁴

理学博士渡瀬庄三郎氏は昨年官命により加奈陀東部地方

に於て現今盛んに行はれ學術上よりするも産業上よりするも孰れも極めて趣味ある養狐事業を視察せられたるが去る二月十八日南英文庫に於て「野獣の養殖に就いて」と題して講演せられたり「獣」と「畜」との別、野獣養殖の意義、野獣養殖と人間進化の関係、毛皮問題、養狐の利益、娯楽の野獣の養殖等を説明して後幻灯及活動写真を用ひ北米大陸の養狐に適せる地帯及其地相、養狐の歴史、赤狐、白狐、黒狐、銀狐の形状及狐の野生状態、狐の養殖状態、養殖場各種の設備、養殖狐の生活状態、養狐会社の景、動物園の飼育法と養殖場の飼育法との差異、アラスカの原始的養殖の景、狐の交尾状態、産屋の設備、人に馴れる状態、治病の景等極めて面白き幻灯を詳細に説明せられ猶ほ狸、獾、臘虎、川獺、鼬、スカルプ、ドヒョー、山猫、ウルベリン、狼、ヘルバリン、臘肭臍、白熊、田鼠、マスカラット、ビーバー、チンチラ、野兎、馴鹿、エルブ等の有用動物の幻灯を悉く説明せられ活動写真を用ひプリンス、エドワード島に於ける養狐事業の実際光景を目に見る如く映出して説明せられたり聴講者は理科大学農科大学の教授講師学生農商務省の吏員実業家等を以て場内を充たされ

*keyword：動物、写真、資料

**正会員 東京大学

(〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1)

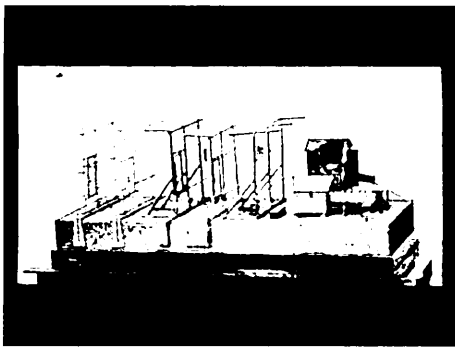


写真0101 養狐事業関係ガラス写真
21b [3020]



写真0102 養狐事業関係ガラス写真

1 [3003]、2 [3008]、3 [3011]、4a [3065]、5 [3290]、6 [3074]、(6a) [3196]、7a [3069]、
8 [3010]、9 [3068]、10 [3067]、
11 [3279]、13 [3070]、14 [3269]、15 [3278]、18 [3002]、19 [3292]、20 [3006]、
22 [3280]、23 [3024]、25 [3013]、26 [3023]、27 [3285]、28 [3286]、29 [3283]、30 [3021]、
31 [3022]、32 [3289]、35 [3019]、37 [3291]、40 [3018]、
41 [3284]、42 [3017]、43 [3016]、44 [3015]、45 [3014]、45a [3276]、46 [3288]、50 [3267]、
51 [3270]、55 [3277]、
64 [3264]、65 [3266]、66 [3268]、67 [3265]

たり。

写真 0101 は「天覧模型」とされているものである。あまり見られない模型なのではないかと思われるが内容的には養狐事業へ使われた小屋と金網の模型にあたるものである。

大正 5 (1916) 年 7 月 10 日に東京帝国大学卒業式において「貴重毛皮獣の養殖に関する設備の模型及写真」の天覧ということが動物学教室教授渡瀬庄三郎 (1862—1929) によって行われている。このことからおそらくはこのときの模型にあたるものと考えられる。

- ・「加奈陀に於ける養狐の実況」について「模型及写真」によって説明が行われ
- ・「樺太に於ける養狐事業の現況」について示され最後に
- ・「我国に産する狐の種類」について「毛皮標本」によって説明が行われ

以上のようなことがあわせて行われたとされている。

写真 0102 はキツネ・小屋・金網そのほかが撮影されたものである。このようなものは一連の写真資料のうちのガラス写真においてまとまって見られるもののひとつとなっている。

前出の模型の写真も含めて一連の写真と見られるものへ番号が付されている。

1、2、3、4a、5、6、(6a)、7a、8、9、10、
11、13、14、15、18、19、20、
21b、22、23、25、26、27、28、29、30、
31、32、35、37、40、
41、42、43、44、45、45a、46、50、
51、55、
64、65、66、67

たとえば以上のようなもので必ずしも全てへ付されているわけではないし番号がそろっているわけでもないものの一定の関連性ということがうかがえるものとなっている。

1 点目が「U.S. BIOLOGICAL SURVEY FOURTH PROVISIONAL ZONE MAP OF NORTH AMERICA」⁶、2 点目がプリンスエドワード島の位置が示された地図となっていることから大正 4 (1915) 年 7 月にカナダ・北米へ派遣された渡瀬によるものと考えられる。

大正 5 (1916) 年 2 月 18 日に南葵文庫において「野獣の養殖に就いて」と題された講演が渡瀬によって行われている。

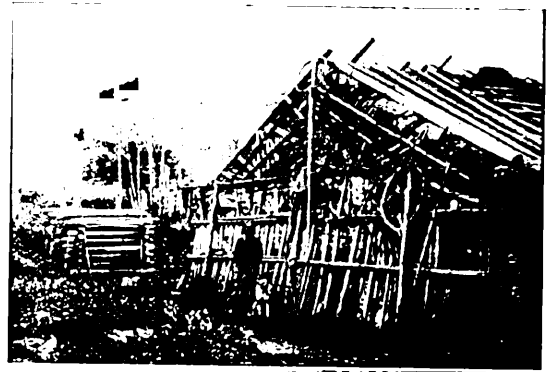


写真 0201、0202 イエイヌ関係ガラス写真

- ・「獣」と「畜」との別
- ・野獣養殖の意義
- ・野獣養殖と人間進化の関係
- ・毛皮問題
- ・養狐の利益
- ・娯楽の野獣の養殖

以上のようなことについて説明が行われ

- ・北米大陸の養狐に適せる地帯及其地相
- ・養狐の歴史
- ・赤狐、白狐、黒狐、銀狐の形状及狐の野生状態
- ・狐の養殖状態
- ・養殖場各種の設備
- ・養殖狐の生活状態
- ・養狐会社の景
- ・動物園の飼育法と養殖場の飼育法との差異
- ・アラスカの原始的養殖の景
- ・狐の交尾状態
- ・産屋の設備
- ・人に馴れる状態
- ・治病の景

以上のようなことについて「幻灯」や「活動写真」が使われるとともに極めて面白い「幻灯」について詳細な説明が行われたとされている。

一連の写真と見られるものについても前出のもののかにもたとえば

7a arctic fox、8 red fox、9 gray fox

あるいは

21b 模型、22 図面、23 図面

などというように随所へ内容的な対応性ということがうかがえるものとなっている。

- ・狸
- ・獾
- ・臘虎
- ・川獺
- ・鼬
- ・スカルプ
- ・ドヒョー
- ・山猫
- ・ウルベリン
- ・狼
- ・ヘルバリン
- ・膾肭臍
- ・白熊
- ・田鼠
- ・マスカラット
- ・ビーバー
- ・チンチラ
- ・野兎
- ・馴鹿
- ・エルブ

以上のような有用動物について「幻灯」が使われるとともにことごとく説明が行われ

・プリンスエドワード島における養狐事業の実際光景について「活動写真」が使われるとともにそれらが目に見えるように映出されて説明が行われたとされている。

02. イエイヌ関係

【史料 0201】⁷

六月例会。六月二十四日（土）午後二時より、東大、理学部教室に於て開催。幻灯を用ゐて多数の珍奇なる写真を供覧し、また日本犬の系統問題に関係ある狼、野干等の頭骨などをも示されつゝ約二時間に亘り左の講演ありたり。其の大意はその中本誌に掲載の予定なるを以て今は省略す。出席者約六十名。

日本犬に就て……………渡瀬庄三郎氏。

写真 0201、0202 は樺太・台湾のイヌと建物が撮影されたものである。イヌは前出のキツネとあわせてやはりガラス写真としてまとまって見られるもののひとつとなっている。

内容的にはイエイヌや日本犬の起源へ関わるもので飼

い犬については必ずしも意図的なものでなくても何らかの建物とともに撮影されたものも少なくない。

このような写真の撮影あるいは採集ということが

- ・石田収蔵 [3227、3245、3359]
- ・田子勝弥 [3226、3235、3244、3258]
- ・内田清之助 [3238]
- ・河野卯三郎 [3247]
- ・森潤三郎 [3253]

以上のようなもののほか結果的にさまざまな関係者によって行われていた。

大正 11（1922）年 6 月 24 日に理学部教室において「日本犬に就て」あるいは「日本犬の起源に就いて」と題された講演が渡瀬によって行われている。「幻灯」が使われるとともに多数の「珍奇」な写真について供覧が行われたとされていることからおそらくはこのときのものであろう。狼・野干の頭骨などもあわせて示されたとされている。

03. 結

動物学教室へ残された一連の写真資料へは必ずしも狭義の動物学関係へ限られないものも少なからず含まれている。広く景観ということへも関わる養狐事業関係やイエイヌ関係の写真はいずれもガラス写真としてはまとまって見られるものでそれらがたとえば天覧や講演ということとも関わるものであるなど具体的な位置づけが明らかとなった。

¹ 拙稿「近代医家三宅一族旧蔵コレクションの歴史的意義」（『近代医家三宅一族旧蔵コレクション総目録（1）』、2003）、同『『原』コレクションと『現』コレクション—近代医家三宅一族旧蔵写真資料をめぐって』（『近代医家三宅一族旧蔵コレクション総目録（2）』、2005）、同「ムカシトカゲの液浸標本と写真史料」（『文部科学教育通信』、2008）、同「学術標本の製作主体をめぐる表層と深層」（『文部科学教育通信』、2008）。

² 写真はモノか情報かというようなことよりもたとえば内容と著者表示の不一致の背景、標本や写真における本体と文字の関係、それらの文献資料における本文と表題の関係との相違点というようなことを問題としている。

³ 「貴重毛皮獣ノ養殖ニ関スル設備ノ模型及写真」（『東洋学芸雑誌』）

⁴ 「野獣の養殖に就いての渡瀬博士の講演」（『史蹟名勝天然記念物』）

⁵ 東京大学総合研究博物館蔵

⁶ 1910 年のもので C.Hart Merriam + Vernon Bailey + E.W.Nelson + K.A.Preble らによるものである。

⁷ 『動物学雑誌』